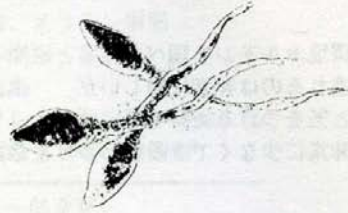


ショック!!

日本人の精子検査で97%に異常

20代(20~26歳)の日本人男性34人の精液を調べたところ、精子の濃度、運動率、正常率などWHO(世界保健機関)の基準を満たしたのは1名だけというショッキングな調査結果が報告されました。(朝日新聞3月9日、日本経済新聞3月15日)

帝京大学医学部の押尾茂講師らのグループが14日の精子形成・精巣毒性研究会で報告したもので、なかでも33名は運動率が低く、WHO基準のいずれにも達しなかったという内容。80年代の調査結果と比較してもすべての項目で下回っているとのこと。



原因について押尾講師は「確定的なこととは言えない。規模を大きくして検討する必要がある」と話しています。

60年代のPCBや農薬汚染に加え、70年代の塩ビ製菌がためやカップラーメンの普及の結果が現れたと言えるのかもしれませんが。日本人の精子の異常が確認された初めてのケースです。

(植田)

環境ホルモンとして生産量第2位のフタル酸エステルは塩ビの可塑剤です。塩ビを使った赤ちゃんの歯がためが始めたのも、70年ごろ。

「最近の男の子は幼い」と小学校や中学校で言われ始めたのは、そのころ生まれた子供たちの世代からです。

ダイオキシンも環境ホルモンです。

そして今、Yさんはクラスの男の子20人のうち3分の2に情緒的な問題を感じると言います。

「キレ」たといって暴力をふるう子、「普通の子」が引き起こすナイフによる殺傷事件。少年たちによる事件が、このところ相

次いで起きています。問題を起こす子は以前からいましたが、このところの事件はあまりに異常で、子供の体に何か起きていると思わざるをえません。

環境ホルモンが子供たちに悪影響を与えていないか、本気で考えてみる必要があります。丸田晴江(編集部)

—— 分析のために情報を集めます ——

環境ホルモンの子供への影響を調べるには、多くの実例を集め、分析して原因を探ることが必要です。子供の様子や、できれば妊娠当時の母親の食生活など、環境ホルモンと関係のありそうな情報がありませんでしたら、ぜひお知らせください。

特集2 環境ホルモン

缶詰の内面塗装に環境ホルモン 安全な缶の見分け方

缶詰の環境ホルモンを調べてみると完全に逃れるのは非常に難しいが、ちょっと気をつけるだけで摂取を非常に少なくできるとわかりました。



最初に私たちが環境ホルモンの衝撃を受けたのは、BBCテレビ制作「精子が減っていく」でした。世界的に話題を呼んだこの番組で、5カ国20銘柄の缶詰を調べたところ、約70%からビスフェノールAが溶出し、乳ガン細胞を増殖させたと報道。缶詰の安全に国際的注目が集まっています。

そこで、缶の安全性を調べてみました。古くから用いられているブリキは、鉄に錫メッキしたものです。ブリキ缶は、錫が溶け出して桃やナシの色を良くするので、現在でも使用されています。錫が溶け出し過ぎると食中毒を起こしますが、錫には環境ホルモン作用がないとされています。

ただし、有機スズは環境ホルモンです。

塗料や樹脂を内側にコーティング

スチール缶もアルミ缶も、缶の内側は塗料や樹脂でコーティングされています。ブリキの缶詰も、フタと底の部分は塗料でコーティング。ピンのフタも同じです。

内面塗料は表1の種類があり、原料に可塑剤、エポキシ樹脂、フェノール樹脂が用いられたものは環境ホルモンの心配があります。つまり、すべての塗料に心配があるわけです。

細かく見ていくと、缶だけでなくビンも環境ホルモンから逃れられません。

BBCテレビで、溶け出さなかった30%の缶も、溶出量が少なかったから検出されなかった可能性があるのです。

今の段階での対策の基本は、溶出量の多い缶詰を避けるようにすることです。

安全性の高い缶の見分け方

環境ホルモンの溶出は、缶の温度を高くすると急速に多くなります。

ビールや炭酸飲料は、中身を入れて温度を50℃くらいにして缶を乾燥させるだけなので、溶出量は非常に少ないと、考えられます。

果汁入り炭酸飲料は殺菌のため70℃くらいに温度を上げます。

炭酸の入っていない果汁飲料は、80℃くらいのものが缶に入ります。

ウーロン茶や緑茶、コーヒーのブラックは115℃で10分加熱。

麦茶、混合茶、ミルク入りコーヒーは、123℃で10分加熱。

肉や魚、野菜などの缶詰は、ポツリヌス菌対策のため、125℃で30分くらい加熱します。